

自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究

(2年次／2か年研究)

総合教育センター 特別支援教育担当



1 研究主題設定の理由とその背景

法令等の整備

- ・「H23改正障害者基本法」
- ・「H24共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」
- ・「H24障害者虐待防止法」
- ・「H25学校教育法施行令の一部改正(通知)」
- ・「H28障害者差別解消法」

埼玉県の事業

- ・「自閉症に特化した特別支援学校就労支援事業」
- ・埼玉県自閉症協会との連携(自閉症支援トレーニングセミナー等)
- ・当センター主催の研修会(年次研修、特定研修、専門研修)

自閉症のスペクトラムという概念の理解

- ・「DSM-5」: 広汎性発達障害の名称変更(自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害)

自閉症の特性を有する児童生徒の広がり

- ・自閉症と診断されている、自閉症の傾向がある児童生徒が多数在籍。(知的障害特別支援学校の小学部と中学部に絞るとそれぞれ約半数)

自閉症の障害特性を踏まえた指導

- ・一つの教室に多様な実態の児童生徒が混在
- ・必ずしも適切な指導・支援がなされているとは言えない現状

自閉症の特性を有する児童生徒数は、従来想定されているより多く、特別支援学校だけではなく、どの学校・学級にも在籍している可能性がある。一口に自閉症と言っても、自閉症はスペクトラムと言われるように、その実態は多様であり、様々な特性の児童生徒が混在している。学校においては、自閉症の特性についての理解が十分に浸透しておらず、必ずしも適切な指導・支援がなされているとは言えない現状がある。一人一人を大切にす指導の充実のために、障害の特性の理解と丁寧な実態把握に基づいた対応に加え、チーム力を生かした組織的な対応が必要である。

2 研究の目的

- (1) 自閉症の児童生徒(自閉症または自閉症と思われる児童生徒)の指導に携わる教員の意識や指導状況を把握し、指導上の課題や疑問点等を明らかにする。(1年次)
- (2) 明らかになった指導上の課題や疑問点等をもとに、実践的な「自閉症の理解と支援Q&A」を作成するとともに、指導実践を行い効果的な実践事例を作成し、それを広く発信する(2年次)

3 研究の方法

- (1) 先行研究を分析し、自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する成果及び課題等を整理する。
- (2) 特別支援学校及び特別支援学級並びに通級指導教室を担当する教員と通常の学級を担当する教員を対象に自閉症の児童生徒の指導に関するアンケート調査を実施する。経験年数や所属校種別(特別支援学級を含む)による傾向を分析し、自閉症の児童生徒の指導に携わる教員が抱く指導上の課題や疑問点を明らかにする。
- (3) これらの取組により得られた成果をもとに、「自閉症の理解と支援Q&A」及び「実践事例」を作成し、それを広く発信する。

4 研究の内容

調査研究（1年次）

研究主題：自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究

①先行研究の分析

- ・自閉症の児童生徒の指導について効果がみられる点
- ・指導上の課題や問題点

②アンケート調査

- ・特別支援学校年次研修を受講する教員
- ・通級指導教室を担当する教員
- ・初めて特別支援学級を担当する教員
- ・通常の学級を担当する教員

現状と課題の整理

- 実態に合った指導計画の作成に難しさがあり、「指導目標や指導内容の選定等」が適切でない状況がある。そして、「児童生徒への具体的な支援方法」については、経験年数を問わず悩みや困難を感じている。
- 児童生徒の行動の背景や原因をとらえ、環境を調整していくことや、不安や刺激を軽減していく配慮、その子に合った教材教具の工夫・開発について課題がみられる。

研究成果

研究成果を活かす（2年次）

「自閉症の理解と支援Q & A」及び「実践事例」の作成（2年次）

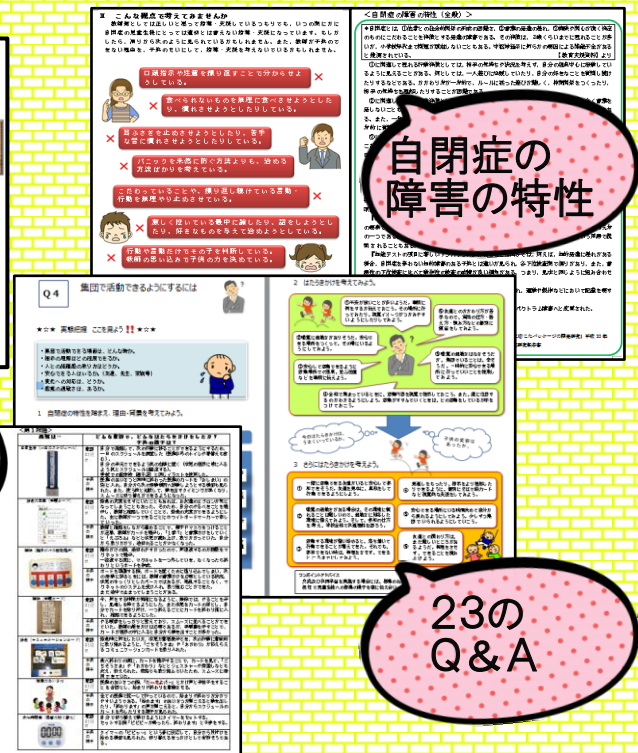
図1 本研究の全体像

「もっと知って欲しい 自閉症の理解と支援のためのガイドブック」

- Q 1 「友達や先生をつねたり叩いたりしてしまいます」
- Q 2 「人が困ることや危ないことをしてしまいます」
- Q 3 「拒否をすることが多く、指導が入りにくいです」
- Q 4 「集団で活動できるようにするには」
- Q 5 「話が一方的です」
- Q 6 「発語があるのに意思表示をしないのは」
- Q 7 「友達や先生に同じ言葉遣いで話してしまいます」
- Q 8 「くりかえし同じことを質問します」
- Q 9 「言葉の指示を聞いて行動することが難しいです」
- Q 10 「授業中突然怒り出してしまいます」
- Q 11 「偏食があって給食が食べられません」
- Q 12 「体調を崩しても気づいていないようです」
- Q 13 「耳をふさいでしまう子供が音楽の授業に参加できるようにするには」
- Q 14 「自分の指の皮をむくことにこだわって、皮をむき過ぎています」
- Q 15 「床に寝そべってしまいます」
- Q 16 「同じ行動をくりかえしています」
- Q 17 「自分のイメージで文字をとらえてしまうようです」
- Q 18 「授業中すぐに集中が切れてしまいます」
- Q 19 「椅子に座って学習するためには」
- Q 20 「サッカーやバスケットボールなどの体育の授業に参加するには」
- Q 21 「宿泊を伴う活動に参加するには」
- Q 22 「活動を切り替えて次の行動に移すには」
- Q 23 「感情を入れた文章をつづること（作文）が苦手です」



3つの実践事例



23のQ & A

- 事例1 「見通しが持てず、活動するのに時間がかかり、人の手が入るとパニックになる児童への指導（小学部）」
- 事例2 「ぼんやりとふらふらしてしまう児童への指導（小学部）」
- 事例3 「蓄えた力を日常生活での自己コントロールに活かす指導（高等部）」

自閉症の障害の特性について

自閉症とは、①他者との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とした発達の障害である。その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いが、小学校年代まで問題が顕在しないこともある。中枢神経系に何らかの機能不全があると推測されている。

＜H25. 10 文科省「教育支援資料」より＞

①に関連して

例) 一人遊びに没頭、自分の好きなことを質問し続ける、かかわり方が一方的、ルールに従った遊びが難しい、仲間関係を作ったり、相手の気持ちを理解したりすることが困難であるなど。

②に関連して

例) 言語の理解や使用に遅れが見られる、全く言葉を発しない、他者の言葉を模倣するだけ、流暢ではあるが独特の言い方、自分の好きなことを一方的に質問し続けるなど。

③に関連して

こだわりの現れ方として、第一は、ある行動を同一パターンで繰り返すこと、第二は、環境の変化に適応できないこと、第三は、特定の事物に興味と関心が集中することがある。

その他の特性として

- 例
- ・視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚などの様々な感覚に過敏さや鈍感さがある。
 - ・ある一つの要素でしか物事を捉えられず、物事の全体像の把握が苦手さがある。(シングルフォーカス)
 - ・知能テストの項目に著しいアンバランスがある。言語性の検査に比べ、見本と同じように組み合わせる問題などの動作性の検査の成績が良い傾向がある。
 - ・不器用さがあり、運動や製作などで配慮を要する。

Q & Aの構成について

Q2 人が困ることや危ないことをしてしまします

☆☆ 実態把握 ここを見よう !! ☆☆

- ・不適切な行動の前や後にどのような出来事があるのか。
- ・過去にあった出来事が影響していることはないか。
- ・感覚の過敏さ、鈍感さはあるか。(聴覚、光への刺激、触覚)
- ・日頃、友達や先生とどのように関わっているか。
- ・言葉の理解力はどの程度あるか。

1 自閉症の特性を踏まえ、理由・背景を考えてみよう。

対人関係 言葉によるコミュニケーション こだわり 環境の変化 異感し 感覚 多動・衝動性		
理由・背景として考えられること		
周囲の反応を見て、自分が楽しませていると感じている。	自分の思いを伝える時に、そのかわり方しか知らない。	何か不安なことがある、そのやりとりをすると少し安心する。
危ないということを理解していない。	分かっているつもりでも体が動いてしまう。	やるべきことが分からずに、不安である。
自分の話を聞いてもらいたい時のやりとりの言葉を知らない。	感情のコントロールができず、イライラした時にやってしまう。	嫌んで欲しいことをいつか嫌いに何といえはよいかわからない。
人の表情や話し方から困っていること、嫌がっていることを読み取ることが苦手である。	その行動をすると、先生に気付いてもらえた。	このあとどうなるか、自分が何が出来るかもしれないという見通しを持つことが苦手である。
自分が見せた行動により、周囲がどう感じるかわからないことが苦手である。	感覚に自己刺激を入れている。	

2 はたらきかけを考えてみよう。

①相手の対応の仕方に応じているだけかもしれないので、自分で行動をやめた時に促そう。

②危険につながる環境になっているところはないか確認して、その状況は改善しよう。

③自己刺激のために、周りから見ると危険なことをしているように見える。別の行動に置き換えることが出来るようにしてあげよう。

④自分の行動が相手にどのように受け止められるか想像できないので、その行動が相手に与える印象を表情カードや文書、写真など子供が理解しやすい形で教えていこう。

⑤課題に取り組みえないことへの表れかもしれないので、興味のある内容を使って材料を作ったり、課題の量を調整したりしてあげよう。

3 さらにほたらきかけを考えよう。

①自分でやめられる場面が増えてきた。本人から相手にかけられるような言葉かけを練習して、一緒に楽しい活動をする場面を増やしていこう。

②活動の見直しや工程表などで示し、自分でできる活動を増やしていこう。

③やりたい活動を選択するという、やりとりができるようになってきた。学校のほかの場面でも、選択する場面を作ってみよう。

④人が困ることや危ないことをすることが減ってきた。さらに、課題を選んだり自分で考えたりしながら、自主的に学習に取り組み、成就感をもてるようにしていこう。

⑤さらに、良いかわり方をする相手はどんな気持ちになるのか、日常生活で一般化できるように、表情カードや文書や目で伝えよう。

⑥本人が通こせる環境を整え、危険な状況はなくなった。また、自己刺激のための方法についても、共通理解をしておこう。

ワンポイントアドバイス
「人と一緒にいると心地よい」、「人に喜んでもらえる」といった、人との関係性を高めていく指導を心掛けることが大切です。

タイトル

最初に、自閉症の児童生徒が見せる行動を示しています。

Qに対しての実態把握の視点！

実態把握 ここを見よう!!

疑問や悩みを解消し、自閉症の児童生徒へのはたらきかけをするために、どのような視点でどんな所を実態把握すればよいのかのポイントを記述しています。

理由・背景として考えられること児童生徒を主として、なぜそのような行動をしてしまうのか、考えた理由・背景について自閉症の特性を踏まえて記述しています。

はたらきかけを考えてみよう

実態把握や自閉症の特性、気になる行動などの理由・背景等を総合的に考えて、どのようなはたらきかけができるか記述しています。

さらにはたらきかけを考えよう

最初に考えたのはたらきかけを見直し、今後どのようにするか、改めて考えた内容について記述しています。

特定の子供をモデルとして限定せず、実態や背景を幅広く、様々な視点で考えられるよう構成！

初めのはたらきかけの結果を踏まえ、次のステップを考える視点(再構造化の視点)で構成！

実践事例の構成について

実践事例

【事例1】見通しが持てず、活動するのに時間がかかり、人の手が入るとパニックになる児童の指導

小学校の児童が学校生活全般において、視覚支援を中心としたはたらきかけにより、一人で行えることが増え、活動に参加できる時間が増えたケースである。

キーワード：見通し、視覚支援、パニック

1. 子供の様子？

- ・生活全般では、ほんやりしていることが多く、全体的に行動に時間がかかる。手を出されると、パニックになることもある。
- ・日常生活（朝の準備）では、行動に時間がかかり、上の空のような様子である。
- ・生活単元学習（調理）では、待つことができないで教室を動いたり、パニックになったりする。
- ・図画・算数（算盤）では、うっかり間違えたり、教師の手が入るとパニックになったりする。

2. 自閉症の特性を踏まえて考えよう。

- ・行動に移すまでに時間がかかるのは、気持ちの整理をしているからか。
- ・上の空に見えるのは、嫌な嫌な苦痛で何をしてもよいのかわからないからか。
- ・教師の手が入るとパニックを起すのは、自分が失敗したと感じてしまうからか。
- ・どのようなはたらきかけが有効か？
- ・何をしたら、見て分かるようにするために視覚支援を行う。
- ・見通しを持たせて、気持ちの整理がスムーズにいくようにする。
- ・時間を待てないよう、待つ時間の少ないメニューにする。
- ・人の手が入らなくても自分でできるよう、あらかじめヒントを提示する。



3. 目標の設定？

- ・活動の見通しを持って、一人で活動できるようにする。
- ・「分かる」「できる」状態を確立して、自己肯定感を高める。

4. やってみよう

①見通しが持てるように手順カードを作ってみよう。

②待ち時間が多すぎると不安になる。学習課題を工夫し、待ち時間を減らそう。

③分かる、できる！と経験する為に、教材の工夫をしよう。

④自己肯定感が持てるよう、一人で最後まで取り組む指導をしよう。

⑤自分でできるよう、必要以上の声かけはしない。本道に当たった時までは手を止めるのをやめよう。

⑥気持ちの整理をつけられるように、緩やかに時間設定をしよう。

「さらに、はたらきかけを考えよう。」

今の「はたらきかけは、うまくいっているか？」

①②調理の手順は分かったみたい。待ち時間がなくて不安が解消されたけど、終わる後に何をすればよいかわからなかったみたい。授業全体の流れを提示してみよう。

③子供が「一人でできた」「分かった」と感じられる教材の工夫はさらに必要だね、続けていこう。

④自己肯定感を高めるのは指導の基本だね、必要だから続けよう。

⑤算盤は、あらかじめのヒントで、一人でできるようになってきた。分からない時に自分から助けを求めよう。ヘルプカードを活用してみよう。

<第2段階>

課題は…	どのような意図で、どのようにはたらきかけをしたか？ 子供の様子？
朝の準備の手順カード はたらきかけ ①タイムタイマー	④待ち時間が分かるように、タイムタイマーを使い、終わりが分かるように示した。 時計を見た時など、良い行動が見られた時に褒めるようにした。 ※ タイムタイマー・時間の量を視覚で示す教材
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④タイムタイマーを気にしながら、時間までは動かし出さないことが多くなり、時間があと少しになると音響え始め、終えることができた。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④調理の手順だけの見通しだけでなく、授業全体（1時間）の流れを示し、見通しが持てるようにすることで、調理後もやるべきことが分かるようにした。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④調理の手順が終わっても、次にやることに設定されていたので、自分で後片付けをしようとした。また、教室を動かし回ることがなくなった。

<第1段階>

課題は…	どのような意図で、どのようにはたらきかけをしたか？ 子供の様子？
朝の準備の手順カード はたらきかけ ①タイムタイマー	④本人が好きなごほうびのイラストをいくつか貼ることで、やりたいものを選ぶようにした。 見通しを持たせたり、ごほうびのイラストを貼ったりすることで、自分でできるようになった。 なかなか進まない時は、気持ちに寄り合いをつけているかもしれないので、準備や着替えは朝の間に間に合わせようとする。 取り掛かった時に褒めるなど、肯定的な声かけをした。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④始めは、一つの準備を終えたらそのまますぐうつと教室を歩くことが多かったが、徐々に自分から手順カードの位置に戻り、手順カードの文字を読んで準備を続ける様子が見られるようになってきた。また、ごほうびを楽しみに頑張る様子も見られるようになった。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④やることと自分、自分でできるように、手順に手順を示した。 手順カードを用いて一人で作る活動を設定し、待ち時間を少なくすることで、何をすればよいのかわからない時間を作らないようにした。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④調理中は教室を歩かなくなり、手順カードの文字を読み上げながら、自分で進めることが増え、徐々に着いて一つ一つの工程に取り掛かることができた。 手順カードの内容が終わると（食べ終わると）何をすればよいのかわからなくなり、声を上げながら教室を動かし回ることが見られた。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④それだけ取り掛かるようになったので、手順カードを見通しを持たせた。また、自分で準備を繰り返して取り掛かるようになった。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④それぞれの準備に、あらかじめヒントを付けておき、それを手がかりに自分で取り掛かるようになった。
調理の手順カード はたらきかけ ①一時の区切り	④自分で同じ色の準備を繰り返し、それを意識して着て取り掛かるようになった。 ヒントがあることでより見えて分かる、自分で判断して取り掛かるようになった。また、答えが分かるので、教師の手を出さずに取り掛かるようになり、パニックになることが減った。

ヘルプカード

おしえてください

④あらかじめヒントがあれば一人でできるようになる。より自力の行動を増やすために、ヘルプカードを活用した。
自分から教師に助けを求められるようになった。

⑤視野に入る所にヘルプカードを置いておくことで、自分で手にすることができるようになった。
ヘルプカードを手にした時に、ヒントを提示しても受け入れられるようになった。

5. 結果を考察してみよう

子供が変わった！

・これまででは、見通しが持てなくて、やろう！と思うまでに時間がかかっていたんだ！それに、他の人に手を出されると、否定された気持ちになっちゃって…

ここがポイント！

- ・朝の準備・調理・調理と、手順表の進め方を統一しました。慣れているものを使うことで、どの場面でも本人が分かる環境を作ることが大切です。
- ・教材を作成する際は、一人でできることに重点を置き、教材にあらがしめヒントを示して、「一人でできた」「分かった」という気持ちを育てよう！としました。その後、少しずつヒントを減らしていき、徐々に自分でできるようになっていくことがポイントです。
- ・関わり方では、緩やかな活動を認め、時間に余裕を持たせることを意識しました。構想を示した中で、なるべく本人にまかせることが大切です。言葉かけは、否定的なものではなく、良い所を見つけて肯定的な言葉をかけることがポイントです。

対象の事例の子供に、Q & AのようなPDCAサイクルで実践！使用した教材の画像などを配し、そのはたらきかけの意図や結果を記述！

子供がどのような力をつけ、どのように成長したかを、子供の立場から記述！また、取り組みのポイントや、実践する上で大切にしたいことも、教師の視点から記述！

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・現場の教師が疑問に思っていること、困難と感じやすい場面を取り上げ、Q & A形式でPDCAの考え方（実態把握・指導の仮説・はたらきかけ・はたらきかけの再構築）の道筋を示すことができた。
- ・実践事例において、実際に使用した教材教具や環境設定を示しながら、その使用の意図とはたらきかけや子供の変容が分かるように示すことができた。

(2) 課題

- ・本研究の成果が、特別支援教育に携わっている教員だけでなく、小・中・高等学校の全ての教員に活用され、正しい障害理解のもと、自閉症の児童生徒が適切な支援を受けられること。
- ・県内外を問わず教育関係者及び関係機関に本研究の成果を発信し、周知に努めること。
- ・各地域・各学校において、特別支援教育の核となる教員の育成を早急に進めていくこと。

研究報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページ (<http://www.center.spec.ed.jp>) から閲覧できます。